

1. 概要

(1) 実施日時 2016年4月9日(土) 9時30分～15時15分 うす曇り



—奥池石碑前での挨拶風景—

(2) テーマ タムシバ・サクラの花を楽しむ!

(3) コース 奥池バス停(集合)→観音山→鶯林寺→北山貯水池→北山緑化植物園 (解散)

(4) ポイント 観音山のタムシバの花の開花をはじめサクラ、ツツジ、ザイフリボクの各花を観察しながら春の山歩きを楽しむ。

(5) 参加者 ビジター39名+会員34名=73名
(4月2日実施自主研修会 参加会員34名)

(6) 配布資料 ①A5サイズ8ページ冊子(コース概念図、地形説明図、ツツジの説明、タムシバの説明、サクラの説明、鶯林寺由緒、コース沿いの植物リスト)
②六甲山のツツジ(カラーパンフ)

(7) 班リーダー ビジター1班 栃尾、ビジター2班 川井、ビジター3班 竹上
ビジター4班 中村 会員班は松本代表にお願いした。



—タムシバの花—

2. 観察記録

(1) ●奥池石碑前にて9:35分から挨拶、注意事項の説明を行う。(山田)

- その後六甲山の成り立ちについて地形の説明をする。(坪田義)
- 10時に出発し奥池ではオオバヤシャブシの雄花序、雌花序の着生位置の特徴などを観察する。またクロモジやヒサカキの雄株の花、雌株の花の観察を行う。
- 植栽されたものと思われるがオンツツジ(未開花)について開花写真と照らし合わせながらその樹皮や樹形を観察する。
- 観音山への道ではタムシバの樹形や樹皮を見て、落ちている花卉の味がレモンバームに似ていることを体験する。またタカノツメ、コシアブラの枝ぶりの違いや維管束痕の違いを確認する。その他ショウジョウバカマの開花、イロハモミジの花の雌性先熟を観察する。またアオハダの短枝の多い特徴、樹皮を削ると緑色の内皮が見えるのを体験する。

「主な観察植物」:

アカガシ、アセビ、ヒサカキ、アオハダ、アカシデ、ウメモドキ、ウラジロノキ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、オオバヤシャブシ、オンツツジ、カンサイスノキ、クロモジ、ケアクシバ、コアジサイ、コシアブラ、ザイフリボク、タカノツメ、タラノキ、ナガバモミジイチゴ、ヒメヤシャブシ、マンサク、モチツツジ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、リョウブ



—植物観察風景—

- (2) ●11時40分に昼食場所に到着する。(観音山頂上は場所が狭いことから少し手前の場所でピジター、会員別々に昼食をとり交代で頂上の展望を見る。
- 5班担当の5月の定例自然観察会のチラシの配布を行う。
- 12時20分に出発する。



—観音山頂上から—

- (3) ●昼食後沢筋のせせらぎコースを歩き鷲林寺に向かう。途中シロバナウンゼンツツジが雲仙には自生していない事を説明。またカラスザンショウの大木の幹に棘の跡が凸型に残っているのを観察す

る。「夏は来ぬ」の歌の歌詞でウツギが匂うと表現されているが実際は匂わないことを説明する。(匂うがごとく咲き乱れる様を表す。)

●鷲林寺ではトイレ休憩を30分とる。その間に鷲林寺の由緒について2回にわたり説明する。(永田)

●鷲林寺境内では枝垂れザクラをはじめ各種サクラの満開の様子を観察する。

「主な観察植物」:

シロバナウンゼンツツジ、アオハダ、イロハモミジ、ウツギ、ウラジロノキ、カラスザンショウ、タムシバ、ヒメヤシャブシ、ヤマザクラ



—鷲林寺由緒の説明風景—

(4) ●13時40分鷲林寺を出発し北山緑化植物園に向かう。

●アオキの雄株、雌株の花の違いを観察する。シャガが3倍体なので種ができないのに寺社などでよく見られるのは人が持ち込んだからと思われることを説明する。

●北山緑化植物園の正門前に1班は15時に到着し流れ解散。正門前のバス停からバスで帰宅する方、甲陽園駅まで歩かれる方に分かれる。

「主な観察植物」:

アオキ、クロバイ、モチノキ、ザイフリボク、シナサワグルミ、ナガバモミジイチゴ、フジ、オオイヌノフグリ、コオニタビラコ、シャガ、フラサバソウ、ホトケノザ、ウラジロ、トウゲシバ

3. 感想

- (1) 定観の2日前に風雨の強い日がありタムシバの花もほとんど見られないのではとの懸念もあったが思いの外開花しており更にヤマザクラ、コバノミツバツツジ、ザイフリボクが彩りを添えてくれ今回の4月定例自然観察会のテーマ「タムシバ、サクラの花を楽しむ！」そのままの観察ができた。
- (2) 今回A5サイズ8ページの資料を作りビジターに配布したところ、参考になると好評だった。
- (3) 一か所足場の悪いところがあったが各班が注意深くビジターの足の置く順番を確認しながら進み安全に全員通過を確認できたのは良かった。

補足: 観察会の集合時、「神戸・六甲山の草花ハンドブック (春～初夏編)」並びに「六甲山の豊かな植生と神戸市のレッドデータ植物」の斡旋販売があった。